

今年も早や8月が巡って来ました。気が付けばカレンダーの残りも少なくなっていました。時間は同じ速さで流れているのに、年を取るにつれて早く過ぎ去るよう感じるのはどうしてでしょうか？先日「チコちゃんに叱られる」というTV番組でその種明かしがされていました。それは、人生にトキメキが無くなったからだそうです。小さい子供は見る物、聞く物すべてが新鮮で夢中で惹き込まれていきます。大人は学習と引き換えにときめく心を失くしてしまったのでしょうか？ではどうし

たらときめく心を取り戻すことができるのか？子供と一緒に行動する、ときめいた思い出を話し合う、運動をするなど、ときめきを感じるようなことを生活の中に取り入れるといいとか。いずれにしてもボーと生きていたら時間はどんどん過ぎてしまうようです。最期にチコちゃんに聞いてみたいことがあります。「人間はなぜ戦争をするの？」濁りの無い5歳の女の子はどんな答えを導いてくれるのでしょうか？

7/26

シニアの目で覗いてみよう

— バングラदेश編 —  
を終えて



立命館大学大学院 経済学研究科で学び、研究している数人の大学院生、彼らを指導されている同研究科黒川教授が来てくださいました。“国を思う気持ち”の深さがひしひしとお話の中から伺われました。フレンドリーで若い彼等とひと時を持てたことは、近年にない新鮮なものでした～

吹きガラス工房、信楽の谷寛窯、和束の茶畑への遠足は快晴に恵まれました（帰り着いた頃にはわか雨に見舞われましたが）この数日前に足首を捻挫してしまい足を引かずりながらの参加でしたが充分楽しむことができました。

吹きガラス工房では若い女性が汗びっしょりでデモンストレーションして下さいました。作品作りにかかるひたむきな情熱を感じました。

谷寛窯は昨秋スケッチ倶楽部で訪れた所。その時見られなかった登り窯をみられましたし、スケッチした所を違う角度から眺めたり復習しました。

和束の茶畑は 新聞一面の大きな写真を見て、行きたい所でしたが想像以上に感動しました。丘陵のあちらこちらに緑の畝が連なる光景は 本当に美しく心なみえました。

車窓からも茶畑を沢山みせて頂き外国人に人気の所と言われるのも頷けます。15分程で簡単なスケッチが出来たのも嬉しいことでした。

帰途のバスの中では頭の体操をしたり、歌ったり楽しく過ごしました、いつもと違ったことをするのは良い刺激になりますね。

スタッフの皆様大変お世話になりありがとうございました。ご一緒した方々有難うございました。(S.Y)



4/28 第48回 シニアを楽しむ集い を終えて

落語からみる日本の文化 台湾の噺家 — 載 開成氏 —



座布団を背中に背負い、タンクトップにスカート(?)という出で立ちでリュエルにあらわれ、まずはど肝をぬかれて、国・台湾の近代を、文化を、自分の生い立ちを話す中で語られ、とても現実に感じる事ができました。落語の出し物は最初と最後に二題演じられました。時間を忘れるほど多岐に渡ったお話を楽しみました。

ごあんない



2018年 大津祭り宵宮(10/6)

恒例 おでん屋リュエル

今年もオープン

おでん 5種 400円



ビール 250円

おにぎり 100円

大津祭・本祭りの日は(10/7)

お茶席・二階観覧席はありますが全席予約制とします。9月中にお申込み下さい。